

理学療法士と義肢装具士の需要の差について

水俣高校2年 松本 蒼汰・井川 陽仁

背景

将来の目標としている職業が理学療法士だったが、義肢装具士という職を知り興味を持ったので、この機会にそれぞれの職業がどのような職種でどのような違いや差があるのかを調べ、未来選択に活かしたいと思ったから。また、世の中にはこんな職業があり多方面から必要とされているということを知ってほしいからです。

仮説

まず純粋に理学療法士のほうが多いのではないかと双方ともに男性の方が多いのではないかと考えました。そして、女性の職者が増加しつつあるのではないかとという仮説を立てました。

結果

現在理学療法士と義肢装具士の資格所有者が理学療法士のほうが30倍以上多いことがわかりました。また男女比は理学が国家試験開始時、9:1だったのが現在では6:4と女性が増加していることがわかった。(男性が7万6千190人女性が4万9千182人)そして装具の方は8:2と理学に比べ女性の増加が見られない(男性が4千100人女性が1025人)。

考察

調べてみてやはり理学と装具では職者数に大きな差がありました。需要も理学のほうが高いと思われる。しかしどちらの職も増加傾向にあるという共通点があった。

結論・まとめ

自分たちの仮説は、半分あっていて半分間違っていたといったようなものでした。まず理学も装具も男性の方が多いというのは大方あっていました。しかし女性の職者については理学は近年急増してきているが装具士については増えてはいるがごく少数であった。

展望

今回の調べ学習は自分の知識の確認プラス増幅に繋がったと思うのでとても良い学習になったと感じました。

そしてこのテーマはSDGsの③「すべての人に健康と福祉を」に当たると思う。

そして今後調べたいことは、今回は日本国内のみで調査をしたので今度は世界に視野を広げ世界の医療関係の職者の数や職の種類男女比などを調べてみたいです。

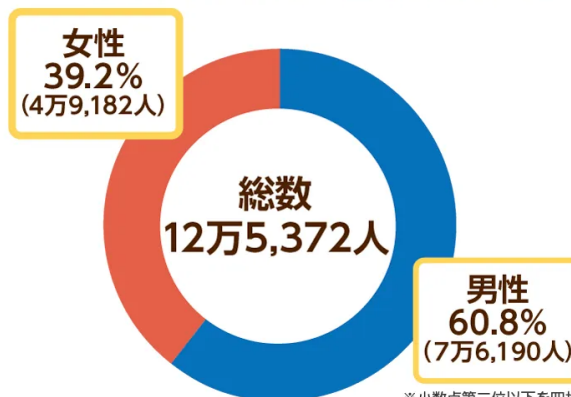
調査研究手法

インターネットでの情報収集を基軸に、図書室の本や実際に働いている方の話を聞いたりしてインターネットだけではわからない職場の雰囲気などを調べられた。

また、調査で得たいことは現在の日本の理学、装具の分野が現在どのような状況にあるのかを知り将来選択のヒントを得るのが目的で調査を行った。

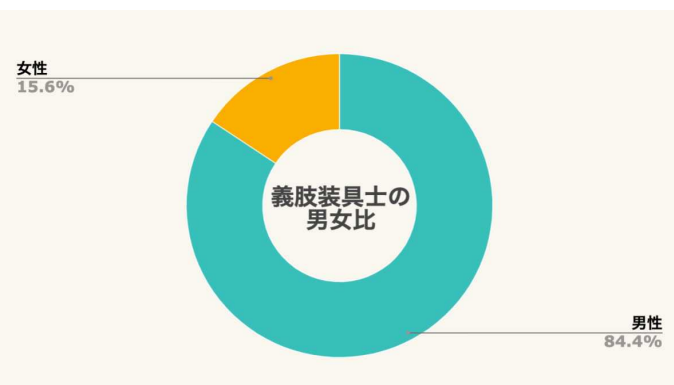
図1*理学療法士の男女比率

理学療法士の会員総数と男女比



※小数点第二位以下を四捨五入

図2*義肢装具士の女比率



3 すべての人に健康と福祉を

